

「当院における予防管理とリコールの実際」

角町歯科医院

古賀真由美

私達の医院は、今年で18年目を迎えます。0才より、第3大臼歯の処置を含めて、第2大臼歯萌出完了期までの、口腔の管理と処置を通して、健全な口腔の育成を目指しています。開院当時は、「治療行為を行わない」小児歯科としてスタートしたのですが、「虫歯洪水」という濁流に吞まれてしまい、「歯を削ること」を余儀なくされてしまいました。しかしながら、私達は、子供自身が生涯を通して、自立的な口腔管理を行えるように、当院における予防管理プログラムに従って、保健指導を行っています。

当院では、患者を、年齢毎にステージ分けを行い、リスクチェックをし、管理群分類別に、年齢を口腔状態に応じて処置と管理を行っています。具体的には、**①完全依存期**・**②母子移行期**・**③自立前期**・**④完全自立期**という、若年期におけるライフステージの分類を行い、カリオスタット・唾液検査等によってリスク評価をします。そして、管理群を**①**予防管理群・**②**予備治療管理群・**③**治療管理群・**④**咬合管理群として管理するというものです。そして、自分の健康は自分で管理できるように、知識に裏づけられた行動の変容を起こさせること、ウ蝕予防から歯周疾患の予防と、一貫した口腔管理を通じて、健康な口腔の育成を目指しています。又、このように、管理の中で、保健指導の積み上げを行う手段として、歯科保健指導処方箋を用い、指導者間の差をなくし、常に同じ指導が継続的に行えるようにし、母親へも、その都度歯科保健指導処方箋を手渡すことによって、指導者との相互理解と、予防への取り組みができるようにしています。

今回は、症例を通して、当院における予防管理の考え方を実践方法、管理システム等について紹介し、御参集の皆様の御指導と御助言をいただきたいと考えています。